

## 会 議 録

### 【事業番号7 介護職員人材定着促進事業費】

- 1 会議名 平成30年度第1回市民行政評価委員会
- 2 日 時 平成30年10月31日(水)午後3時25分～3時55分
- 3 場 所 兼六会議室
- 4 出席者
  - (1) 市民行政評価委員会委員  
岡田委員長、山口委員、坂下委員、山崎(陽)委員  
佐々木委員、竹下委員、林委員、三原委員、村上委員
  - (2) 事業担当課(介護保険課)  
甘池課長、若林主査
  - (3) 事務局(行政経営課)  
津田課長、松本課長補佐、二木係長、古谷主査
- 5 審議内容
  - 評価委員 : カフェへの参加呼びかけはどのようにしているのか。(事前質問)
  - 事業担当課 : 事業を委託している市社会福祉協議会を通じて、市内の介護職員が所属している介護サービス事業所等に対し、下記のとおり周知を行っている。
    - ・チラシ配布(2ヶ月に1回)  
市内介護サービス事業所738カ所、その他関係機関91カ所へ郵送
    - ・チラシ配布(随時)  
出張型カフェの会場となる施設周辺の事業所に対して、直接持参
    - ・ポスター掲示(1年に1回)  
市内介護サービス事業所738カ所、その他関係機関91カ所へ郵送
    - ・フェイスブック(毎週)  
市社会福祉協議会のフェイスブックアカウントを通して、開催案内を更新
    - ・ファシリテーターによる周知(随時)  
介護の専門学校で教員を務めるファシリテーターから、介護事業所で勤務する卒業生等へ周知

## 事業番号7 介護職員人材定着促進事業費

評価委員： 介護職員の定着率・離職率や離職理由などの分析を踏まえて練られたプログラムなのか。(事前質問)

事業担当課： 介護事業所における人材の定着率・離職率をはじめとする介護労働者の就業実態については、金沢市内の詳細な調査結果はないが、公益財団法人 介護労働安定センターが毎年実態調査を行っており、全国的な傾向のほか、参考値として石川県内の状況を確認している。

調査結果では、全国的に介護労働者の不足感が高く、県内においても同様の傾向が示されている。

また、介護職に就いた理由の多くが「働きがいのある仕事だと思ったから」である一方、介護職を辞めた理由として「職場のコミュニケーションに問題があったから」との回答が多いという結果となっている。

これらのことから、本事業では、委託先である市社会福祉協議会と介護労働実態に精通したファシリテーターが協議し、介護に関するスキルアップや介護職員のストレスケアを中心にプログラムを構成している。

### 【参考】

○平成29年度介護労働実態調査( )内は石川県内の事業所  
全国8,782事業所(92事業所)

離職率は16.2%(14.0%)、採用率は17.8%(17.8%)

従業員の不足感は66.6%(68.9%)

(※離職率=離職者数÷在籍者数×100%、採用率=採用者数÷在籍者数×100%)

評価委員： 今年度は技術や知識の面の向上を図るためのプログラム内容にしたため、参加者が回復してきているとのことだが、平成29年度から平成30年度の予算を組むときに延参加者数が減り指標が下がっているにも関わらず、予算は30万以上増加している。これはどういう理由だったのか。

事業担当課： 平成28年度と平成30年度に関しては、カフェの回数を増やしたことなどの事業内容の見直しがあった。平成30年度については主張型カフェの回数を増やしており、予算が若干増加になっている。平成29年度に14万弱年間予算が上がっているのは、事業委託をする際の人件費増加分などである。

評価委員： 平成30年度の予算の増加も人件費か。

事業担当課： こちらは、若手職員を対象としたビギナーズ・カフェを新たに開

- 催したからである。
- 評価委員 : 了解した。
- 評価委員 : 介護職に就かれている方は年齢層が幅広いと思うが、若い方も参加されているのか。
- 事業担当課 : 経験の浅い方を対象にした事業であるので、20代 30代前半ぐらいの方が多い。
- 評価委員 : 若い人が入りやすいテーマにしていただけたらと思う。
- 評価委員 : 特段、研修に年齢制限は設けてないが、結果的に若い方が多くなっているのか。
- 事業担当課 : 年齢制限は設けていない。
- 評価委員 : 対象の事業所が 738 事業所であり、延参加人数が平成 29 年度実績で 244 人ということは、3つに1つの事業所しか参加しておらず、3分の2の事業所は全く参加していない。あるいは3年か4年たたないとすべての事業所に最低1人が出てこないということになるかもしれない。介護の人材というのは非常に貴重で需要も高いと思うが、そういう人たちが研鑽なり疎外感を感じることなく働けるための手段の1つとしてこの研修があると思うので、1事業所から1年に1人ぐらいは出てくれるような仕掛けをしていかないと、参加した人を通じて事業所の中に敷延できず、この事業は今の上では少し難しいと個人的に思う。重要性を認識するからこそ、せっかく参加した人がここではこんないいことがあった、こんな新しいことがわかった、といったことを自分の同僚に伝えられるようになることが必要ではないか。
- 事業担当課 : 補足説明として、介護の事業所は千差万別であり、大きなところから小さなところまであるが、割合として小規模のところが多く、従業員数も 2、3 人ぐらいの事業所が結構ある。また、若い職員の方がいない事業所も結構あるが、そのような事業所の方も希望していただければこのカフェに参加できる。よって、738 の事業所すべてに、事業の案内はさせていただいており、そのような事業所の方にも今後参加してもらえればと思う。
- また、今年度、実際にカフェに参加していただき、働きやすい職場について様々な検討をしてもらったが、その検討内容について事業所の方を一堂に会して、発表するような機会を設ける予定でいる。参加された方がこんなことを検討されて、働きやすい職場について様々な提言をしていただくことで、自分も参加してみようといったことが図られていくのではないかと考えている。

## 事業番号7 介護職員人材定着促進事業費

- 評価委員 : 経験の浅いワーカーを対象にとお話されたが、誰でも参加しているのか。経験の浅いワーカーを対象にしていると明示しているのか。
- 事業担当課 : 周知のチラシには特に経験の浅い方が対象と書いていないが、実際悩みを抱えている人は若い方が多い。
- 評価委員 : 逆に経験積んだ方に来ていただいて、そこで情報交換した方が効果あるのでは。
- 事業担当課 : 経験の長い短いにかかわらず、行き詰まった方が少しでも癒やしになればと思っている。